

## 第20, 21期新日理事監事合同会議議事録

日時 昭和55年7月18日(金) 13.00~15.00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 小平, 松本, 竹内, 内田, 浅井, 河村, 関根, 奥田, 植村, 山下, 増田, 黒木, 二宮, 荒井, 村山, 杉村, 当舎, 田中

## 1. 報告

〔庶務〕

- 7月5日, 日本原子力研究所技術情報部長から, 会誌掲載論文及び会議等発表に用いる「単位, 量, 記号」の標準化の現況について, アンケート調査協力依頼がきた。
- 7月10日, 東レ科学振興会会長田代芽樹氏から, 昭和55年度科学技術賞ならびに研究助成候補者推薦依頼がきた。
- 7月10日, 選挙管理委員長武田武氏から, 日本気象学会第21期役員選挙についての結果報告がきた。
- かねてから申請中の会費値上げに伴う定款の一部変更の件について文部大臣より認可通知がきた。

〔会計〕 6月分の会計報告と文部省図書館に会費値上げの申請を行ったことについて報告があった。

なお, その際文部省に学会の会計年度について質したところ文部省の見解としては現行の4月1日~3月31日の年度会計で差支えないとのこと。

〔天気〕 8月号の目次について説明があった。他に「続・気象学への手引」の発行について次の紹介があった。

## 1. 構成

本文: 基礎コース (12項目)	} 全てオフ セット印刷
アドバンスコース (26項目), 校正記号便覧	
裏表紙: 前回の「気象学への手引」の目次	
合計 256 頁	

2. 発行予定期日 1980年8月下旬, 頒布価格 600円 + 郵送料

〔気象集誌〕 58巻4号~5号の内容の紹介があり, これまで気象集誌の発行は1カ月から1.5カ月位遅れ気味であったが, 4号(9月), 5号(10月)で遅れは取戻せると思う。

なお, 58巻3号についても8月中には発行の予定である。

〔気象研究ノート〕 執筆者の都合にて原稿が予定期日までに到着せず苦慮していたが139号(レーダー特集)は近く発行の見込みである。140号以下で計画進行している項目は気候変動シンポジウム(I), 同雲, 同海洋, 同雪氷, エアロゾル(基礎編)などである。

〔長期計画〕 長期計画委員会の討論内容が資料として説明された。次に引継がれる担当者もこれ以上のものを推進して欲しい。

〔教育と普及〕 夏期大学の準備は順調に進んでいる。関西支部での夏季大学についてはテキスト代がかさんで困るという問題がある。今後テキストの作り方など考えてあまり金をかけないように努力していきたい。

## 2. 引継事項

〔会計〕 昭和56年1月より値上げを承認していただいたので当分のげそうだが今後予想される発送費, 印刷費等の値上りや, 100周年を控えての出費もあるので何分よろしく願いたい。

〔気象集誌〕 最近の傾向としては投稿もヨーロッパ並になってきた。長期計画のさき程の説明の中に応用気象研究分野の研究発表が少ないとの指摘があったが最近はかなり発表がなされている。

〔天気〕 27巻7号に100周年についてのアンケートを掲載した。理科年表掲載記事の件, 次の委員会で討議願いたい。「『ひまわり』の画像から」は2カ年掲載の予定になっているが, その後継続するかどうか検討していただきたい。

〔講演企画〕

- WMO の気候変動のシンポジウムが開かれる。
- 最近, 春・秋の大会の講演希望者が多くてプログラム編成が困難になってきた。  
この問題の解決策としては(1)会場をふやすか, (2)会期を延長するか, その1, その2として提出しているものを一つにまとめるとかの処置をとるべきと思うが, 今後どのように処理するのがよいか検討して欲しい。

〔教育と普及〕 夏期大学については大阪で開催することもあって減り気味であるが, 高校生などにも働きかけて居り, その啓蒙に努めている。現在は63名とのことであるがもっとふえることを期待している。

〔庶務〕 萩原事務局長は静養中。事務局が耐震壁工事の

ため一時5階に移転する予定。旭委員は来期継続を了承。

### 3. 100周年記念事業について

〔気象集誌〕 1982年の第1号を記念号とする。現在の委員に若干名を加えてそのための編集委員会を設ける。1982年から気象集誌のインデックスを新設する。

〔天気〕 1982年の第4号を記念号とする。160頁位を計画している。内容はレビュー、座談会、通史、総目録を企画している。「天気」の歴年カードは東大の木村委員が担当している。「天気」に経過報告をしていきたい。

〔理事長〕

- (1) 1982年秋に開催されることになった Regional Technical Conference on Tropical Meteorology を WMO と気象学会が共催で行うことを受諾した。
- (2) 事務局として財団等から寄付金を貰うことを検討したい。
- (3) 1982年5月ごろ Study Conference on Impact of

Ocean Process on Global Climate and Extended Range Forecasting がもし気象庁主催で開かれた場合には、そのとき出席された2～3名の学者を招待して地方支部で講演して貰う考えである。滞在費は学会が負担することになる。

- (4) 記念式典をどういう風にやるか考えていきたい。

### 3. その他

〔理事長〕

- (1) 「天気」関係としては、1985年の IUGG/IAMAP の気象分科会の総会を日本で開催する案があるが、日本で開催するためには1981年のハンブルグでの総会でその意志表示をしておかねばならない。
- (2) 猿橋学会員の当理事会に対する期限締切後の学術会議会員選挙推薦依頼の件につき討議された結果、一応本人から個人で立候補の手続きをしてもらい、学会推薦の件は次期理事会（8月25日）で討議することとした。

## 第21期第1回理事会議事録

日時 昭和55年7月18日（金）15.00～17.30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保、小平、松本、竹内、内田、浅井、河村、増田、黒木、二宮、荒井、村山、当舎、田中  
議長に岸保理事を選任の上議事に入る。

### 議題

#### 1. 理事長指名

常任理事全員の強い要望と推薦により前理事長の岸保理事が理事長に指名された。

#### 2. 常任理事分担について

地方理事の指名のこともあるので最終的には次の理事会で決定するが大筋では次のとおり了承された。

庶務（正）小平理事（副）黒木理事

会計（正）荒井理事

「天気」編集（正）内田理事（副）杉村理事、坂上理事

「気象集誌」編集（正）二宮理事（副）浅井理事

「気象研究ノート」編集（正）竹内理事（副）河村理事

講演企画（正）増田理事（副）村山理事

学会賞藤原賞（正）未定（副）地方理事

奨励金各賞（正）竹内理事（副）増田理事

南極（正）田中理事（副）杉村理事

長期計画 岸保理事、松本理事、地方理事（正）未定

教育と普及（正）河村理事（副）黒木理事、地方理事（関西）

学術会議（正）増田理事

学術用語（正）村山理事（副）小平理事

#### 3. その他

- (1) 次期常任理事会8月25日（月）10時に開催することを申合せらる。

#### (2) 理事会議題

(イ) 学会運営について

(ロ) 評議員の選出について

(ハ) 100周年記念事業準備委員会

承認事項 高山正ほか9名の新入会員を承認。